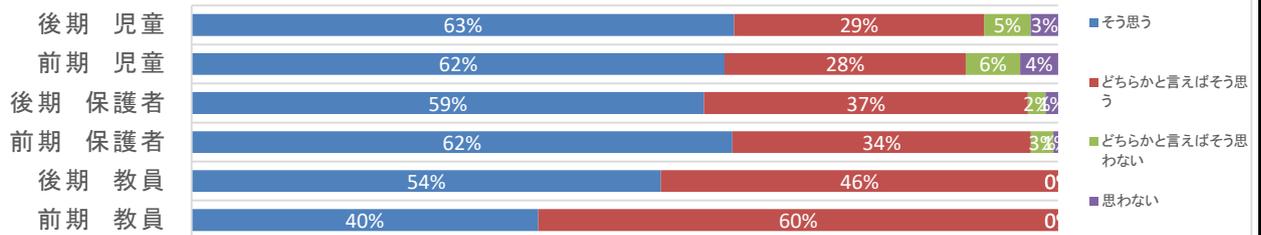


令和7年度 鷹岡小学校 学校評価まとめ

1 生活について

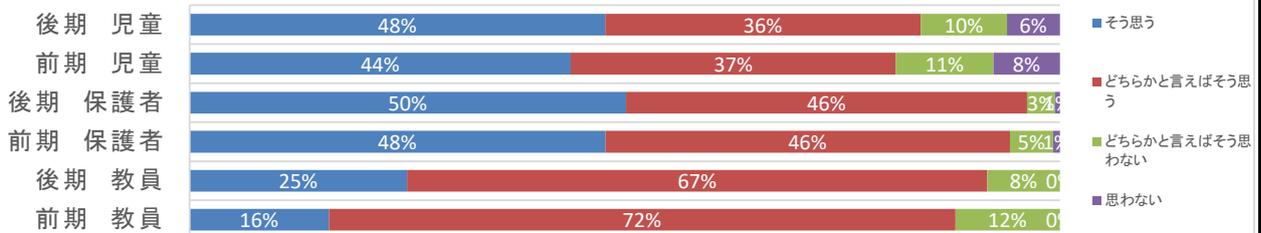
①【保護者】【職員】子供は、学校に楽しく通っている。
【児童】学校は楽しい。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	63%	29%	5%	3%
前期 児童	62%	28%	6%	4%
後期 保護者	59%	37%	2%	1%
前期 保護者	62%	34%	3%	1%
後期 教員	54%	46%	0%	0%
前期 教員	40%	60%	0%	0%



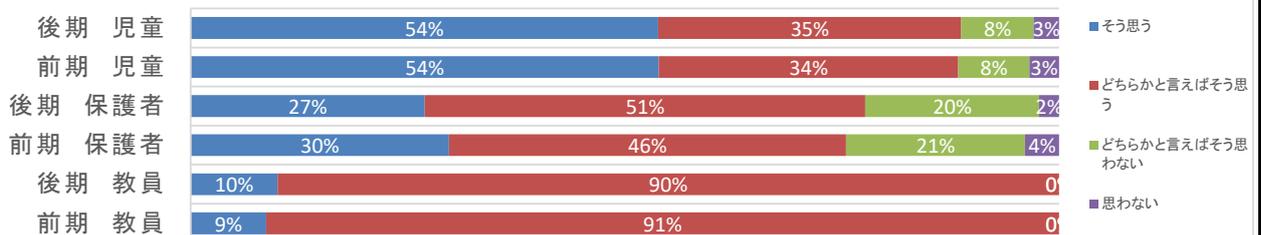
②【保護者】【職員】子供は、自分にはよいところがあると思っている。
【児童】自分にはよいところがあると思う。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	48%	36%	10%	6%
前期 児童	44%	37%	11%	8%
後期 保護者	50%	46%	3%	1%
前期 保護者	48%	46%	5%	1%
後期 教員	25%	67%	8%	0%
前期 教員	16%	72%	12%	0%



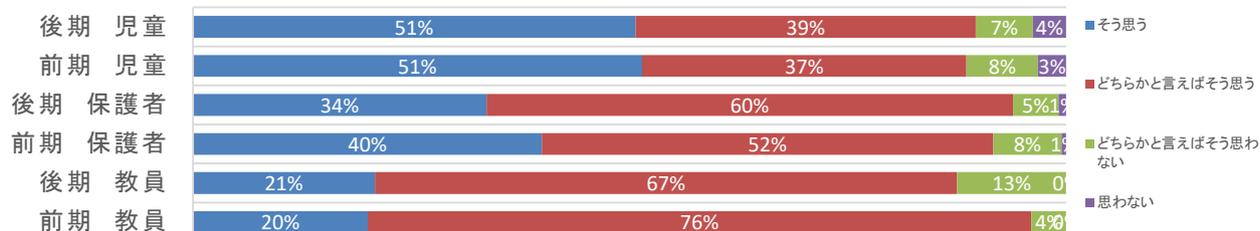
③【保護者】【職員】子供は、普段から進んで勉強や運動をしようとしている。
【児童】進んで勉強や運動をしている。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	54%	35%	8%	3%
前期 児童	54%	34%	8%	3%
後期 保護者	27%	51%	20%	2%
前期 保護者	30%	46%	21%	4%
後期 教員	10%	90%	0%	0%
前期 教員	9%	91%	0%	0%



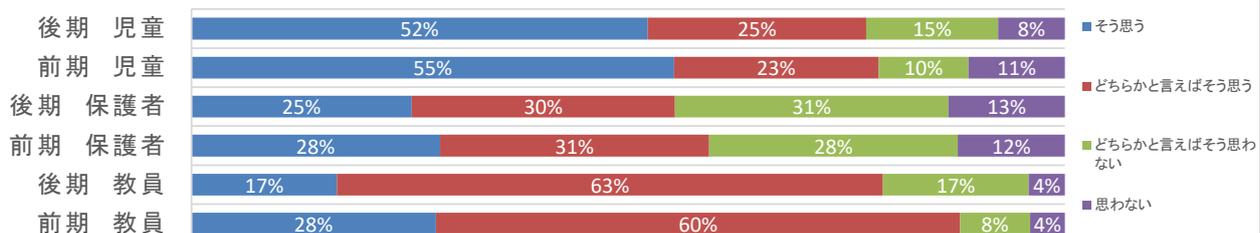
④【保護者】【職員】子供は、友達の思いを受け止めたり、優しく声を掛けたりすることができる。
【児童】友達の気持ちを聞いたり、優しく言葉を掛けたりすることができる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	51%	39%	7%	4%
前期 児童	51%	37%	8%	3%
後期 保護者	34%	60%	5%	1%
前期 保護者	40%	52%	8%	1%
後期 教員	21%	67%	13%	0%
前期 教員	20%	76%	4%	0%



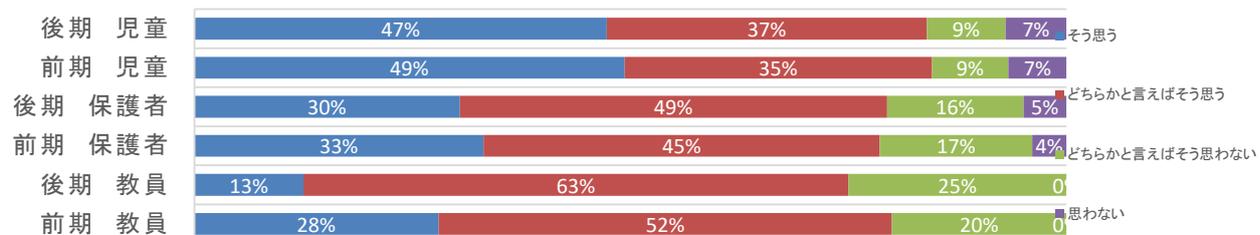
⑤【保護者】【教職員】子供は、読書を楽しんでいる。
【児童】読書は楽しい。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	52%	25%	15%	8%
前期 児童	55%	23%	10%	11%
後期 保護者	25%	30%	31%	13%
前期 保護者	28%	31%	28%	12%
後期 教員	17%	63%	17%	4%
前期 教員	28%	60%	8%	4%



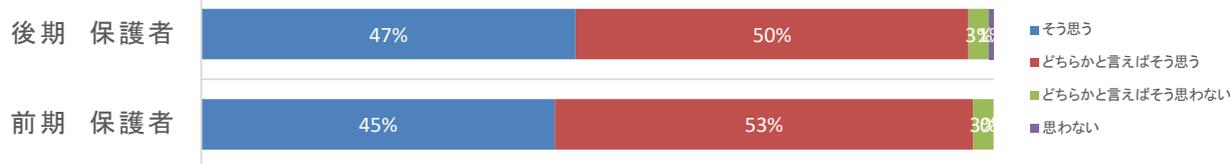
⑥【保護者】【教職員】子供は、家での学習を頑張っている。
【児童】家での学習を工夫して頑張っている。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	47%	37%	9%	7%
前期 児童	49%	35%	9%	7%
後期 保護者	30%	49%	16%	5%
前期 保護者	33%	45%	17%	4%
後期 教員	13%	63%	25%	0%
前期 教員	28%	52%	20%	0%



⑦【保護者】鷹岡小は、安心して子供を任せられる学校であると思いますか。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 保護者	47%	50%	3%	1%
前期 保護者	45%	53%	3%	0%



〈考察〉

設問①「学校は楽しい（子供は学校に楽しく通っている）」について、児童の肯定的な回答は、前期90%から後期92%へと上昇しました。目標値である100%には至っていませんが、職員の「そう思う」という回答が前期40パーセントから後期の54%へと大幅に改善しており、学校全体に活気と充実感が生まれていることが分かります。この結果は、グランドデザインに掲げた「幸せな居場所づくり」の成果と考えられます。子供たちが創意工夫を凝らした縦割活動や「松風まつり」など特色ある行事が、子供たちの楽しいにつながったと思います。今後は、あと数パーセントの子供たち一人一人に対しても「授業のユニバーサルデザイン化」を徹底し、「分かった」「できた」を実感することで、学校が楽しいと感じられるように取り組んでいきます。

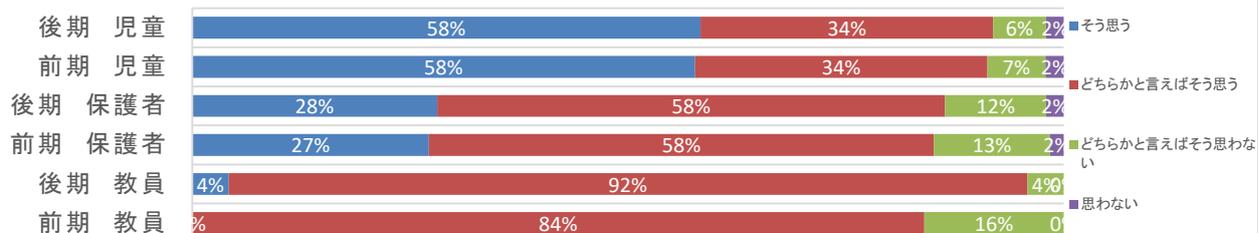
また、近年本校だけでなく全国的にも課題として捉えられている課題である設問②「自分には、よいところがある」についてです。児童の肯定的な回答は84%となっており、前期と比べても、また昨年度の数値と比べても年々上昇傾向にあります。子供たちが、自分のよさを認識し、前向きに生活することができるようになってきている表れだと思います。重点目標「自分を、仲間を大切にする子」の実現に向けて、子供たちのよさを認め、自分のよさに気付けるようにする取組も継続してきましたが、それらの成果が数値となって表れてきていることをうれしく感じます。しかし、子供と大人の意識差が気になります。保護者は96%、教員は92%が「子供にはよいところがある」と肯定的に捉えています。大人は子供のよさを強く実感している一方で、子供自身がそれを自覚しきれていない現状が分かりました。グランドデザインにある「自主性を育み、自分の役割が周りの役に立っていると感じられる特別活動」を強化します。係活動や委員会活動での貢献を価値付けし、自己有用感を高める指導を継続します。保護者の皆様は、お子様のよさを非常に高く評価してくださっています。その思いを結果だけでなく、日々の努力や挑戦に対しての具体的な言葉で伝えることで、子供たちの自尊感情の土台を作っていただければありがたいです。

設問④「友達の気持ちを聞いたり、優しく言葉を掛けたりすることができる」について、児童の肯定的な回答は90%に達し、目標値を達成しました。昨年度の考察では児童と教員の間で評価に差異が見られましたが、本年度は教員の評価も安定し、子供たちの「相手を思いやる言葉遣い」や「尊重し合う姿勢」が学校生活の中に安定してきたと分析します。

2 学習面について

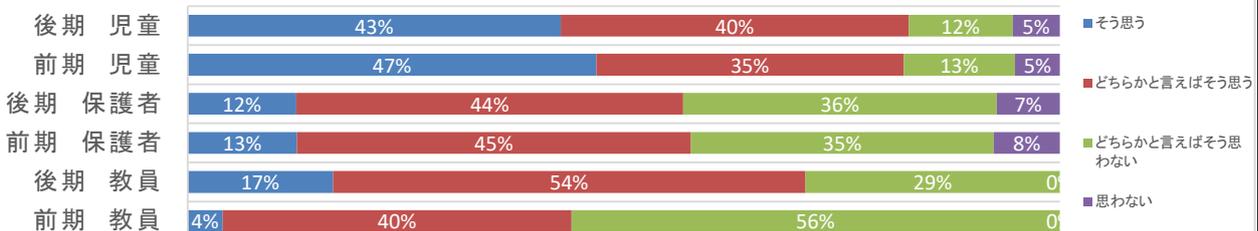
⑧【保護者】【教職員】子供は、授業で学習したことが分かっている。
【児童】授業で学習したことが分かる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	58%	34%	6%	2%
前期 児童	58%	34%	7%	2%
後期 保護者	28%	58%	12%	2%
前期 保護者	27%	58%	13%	2%
後期 教員	4%	92%	4%	0%
前期 教員	0%	84%	16%	0%



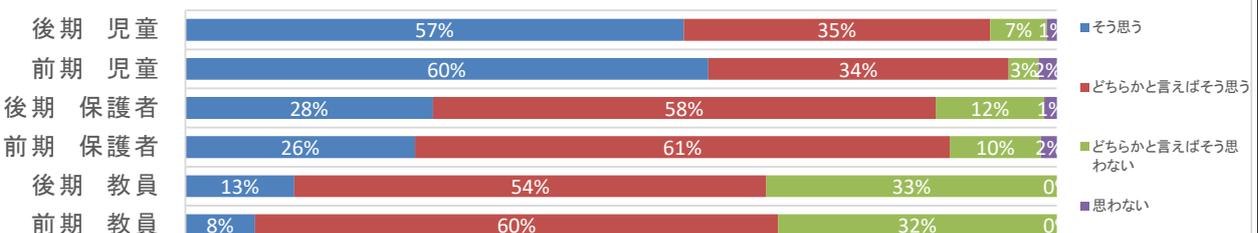
⑨【保護者】【教職員】子供は、自ら問題を見付け、工夫して粘り強く解決しようとしている。
【児童】授業では自分で見付けた「はてな」をじっくり考えている。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	43%	40%	12%	5%
前期 児童	47%	35%	13%	5%
後期 保護者	12%	44%	36%	7%
前期 保護者	13%	45%	35%	8%
後期 教員	17%	54%	29%	0%
前期 教員	4%	40%	56%	0%



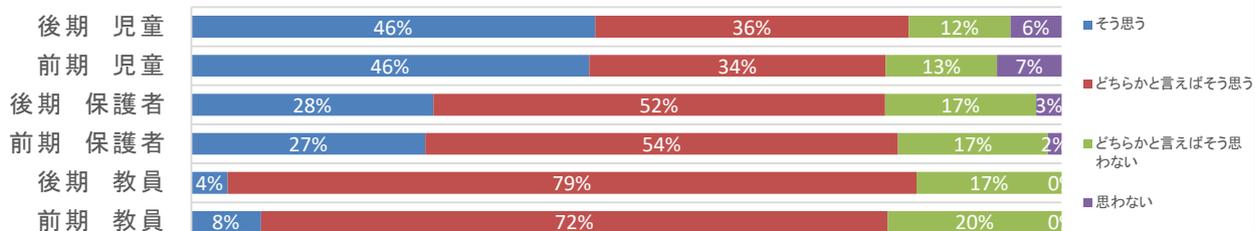
⑩【保護者】【教職員】子供は、相手の話をじっくり聴くことができる。
【児童】友達や先生の話に心を傾けて聴いている。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	57%	35%	7%	1%
前期 児童	60%	34%	3%	2%
後期 保護者	28%	58%	12%	1%
前期 保護者	26%	61%	10%	2%
後期 教員	13%	54%	33%	0%
前期 教員	8%	60%	32%	0%



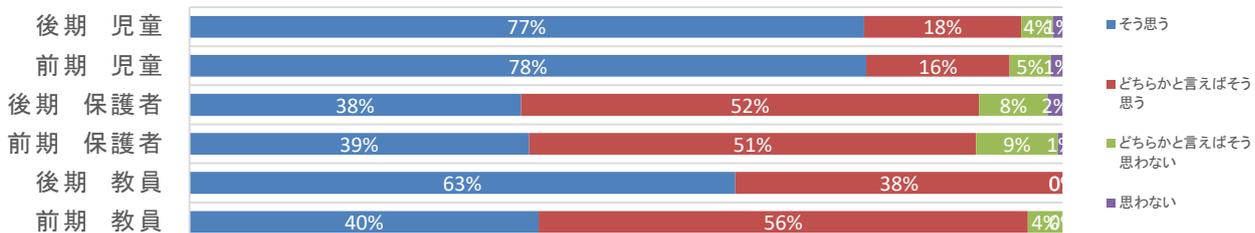
⑪【保護者】【教職員】子供は、自分の考えを伝えることができる。
 【児童】自分の考えを友達や先生に伝えられる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	46%	36%	12%	6%
前期 児童	46%	34%	13%	7%
後期 保護者	28%	52%	17%	3%
前期 保護者	27%	54%	17%	2%
後期 教員	4%	79%	17%	0%
前期 教員	8%	72%	20%	0%



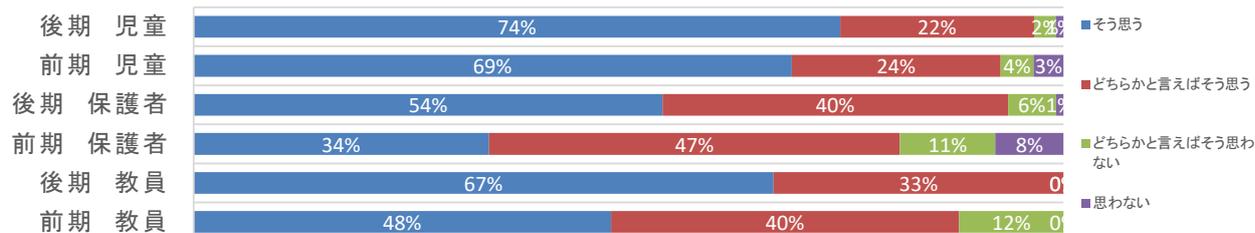
⑫【保護者】【教職員】子供は、友達との学習を楽しんでいる。
 【児童】友達といっしょに勉強することは楽しい。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	77%	18%	4%	1%
前期 児童	78%	16%	5%	1%
後期 保護者	38%	52%	8%	2%
前期 保護者	39%	51%	9%	1%
後期 教員	63%	38%	0%	0%
前期 教員	40%	56%	4%	0%



⑬【保護者】【職員】子供は、授業中、パソコンやプロジェクターを使ったり、カメラ機能を使ったりして学習している。
 【児童】授業中、パソコンやプロジェクターを使ったり、カメラ機能を使ったりして学習している。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	74%	22%	2%	1%
前期 児童	69%	24%	4%	3%
後期 保護者	54%	40%	6%	1%
前期 保護者	34%	47%	11%	8%
後期 教員	67%	33%	0%	0%
前期 教員	48%	40%	12%	0%



〈考察〉

学習面においても目標である「自ら学ぶ子」の育成に向け、ICTの活用や授業のユニバーサルデザイン化が着実に進んでいます。設問⑧の「授業で学習したことが分かる」では、児童の肯定的な回答は、前期・後期ともに92%と目標値の90%を安定して上回っています。そして、教員の意識変化が大きいことが顕著です。教員の肯定的回答は、前期の84%から後期の96%へと大幅に向上しました。この背景には、グランドデザインにもある本校の研修テーマ「『分かった』『できた』を実感できる子」を目指した組織的な授業改善があります。特に静岡大学の山元先生を招聘して継続してきた「授業のユニバーサルデザイン化」は、一人一人が見通しを持てる単元構想や、すべての子供たちの「分かる授業」へとつながっています。これまでこつこつと積み上げてきたものが成果となって表れていると考えるとうれしく思います。今後も子供たちのために、引き続き授業改善に取り組んでまいります。

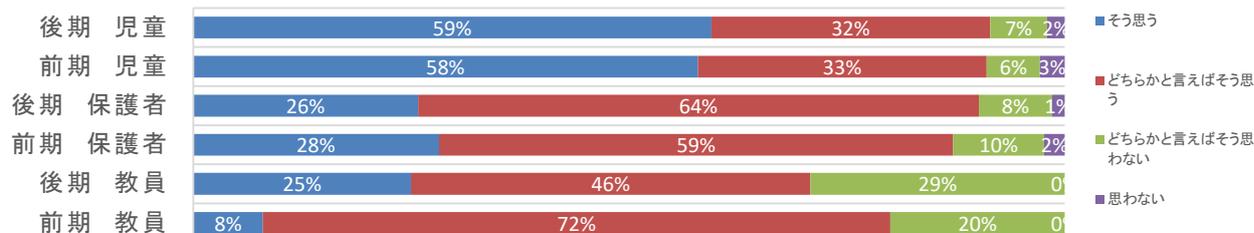
設問⑩の「友達や先生の話に心を傾けて聴いている」においては、児童の肯定的な回答は92%と高い値を維持しています。保護者の肯定的な評価も86%と安定しており、教員も80%が肯定的に捉えています。「友達や先生の話に心を傾けて聴く」姿勢は、重点目標でもある「仲間を大切にする子」そのものです。ただ「聞く」だけでなく、相手の気持ちに寄り添いながら聴くことを学校全体で大切にしてきました。授業中のグループ学習やG I A Gタブレットを用いた意見交流において、多様な考えを受けられる土壌が育まれている成果と考えられます。

また、設問⑬「授業中、パソコンやプロジェクターを使ったり、カメラ機能を使ったりして学習している」においては、児童の肯定的な回答は96%に達し、教員に至っては100%が肯定的な回答をしています。保護者の肯定的な評価も前期の81%から94%へと上昇しました。ICT機器は、本校にとって特別な道具ではなく、文房具と同じ当たり前の道具になりつつあります。これからもプロジェクターやカメラ機能を効果的に活用し、視覚的に分かりやすい授業を推進していきます。保護者の皆様の理解が深まった要因として、学校公開等を通じて、子供たちが生き生きとタブレットを使いこなす姿を直接ご覧いただけたことも大きいと考えています。

3 学校教育活動について

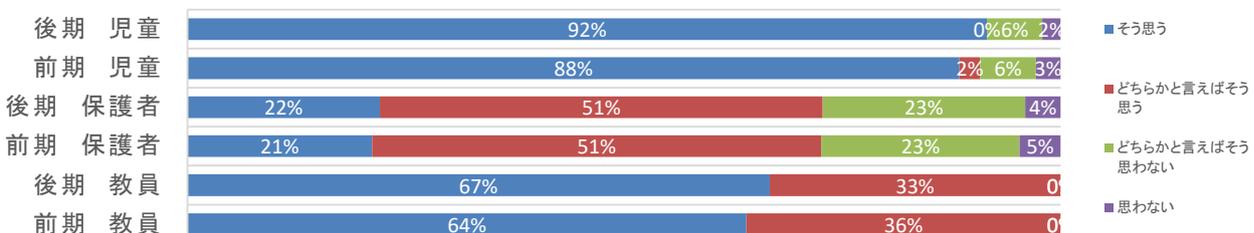
⑭【保護者】【教職員】子供は、「自分を、仲間を大切にする子」を意識して生活している。
【児童】「自分を、仲間を大切にする子」を意識して生活している。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	59%	32%	7%	2%
前期 児童	58%	33%	6%	3%
後期 保護者	26%	64%	8%	1%
前期 保護者	28%	59%	10%	2%
後期 教員	25%	46%	29%	0%
前期 教員	8%	72%	20%	0%



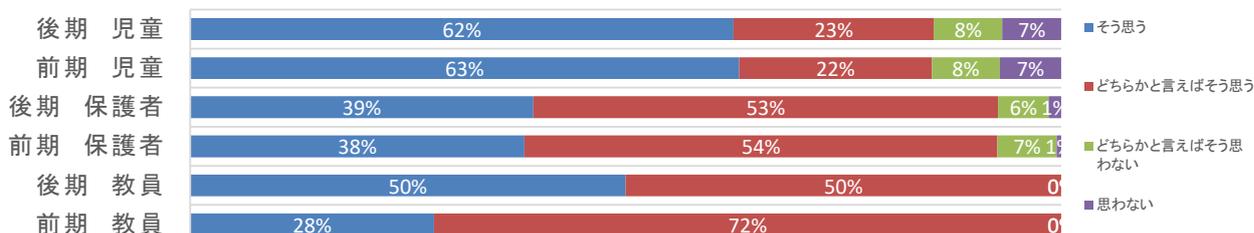
⑮【保護者】【教職員】学校は、子供の悩みや相談に親身になって応じている。
【児童】先生は、困っていることや、悩んでいることをしっかりきいてくれる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	92%	0%	6%	2%
前期 児童	88%	2%	6%	3%
後期 保護者	22%	51%	23%	4%
前期 保護者	21%	51%	23%	5%
後期 教員	67%	33%	0%	0%
前期 教員	64%	36%	0%	0%



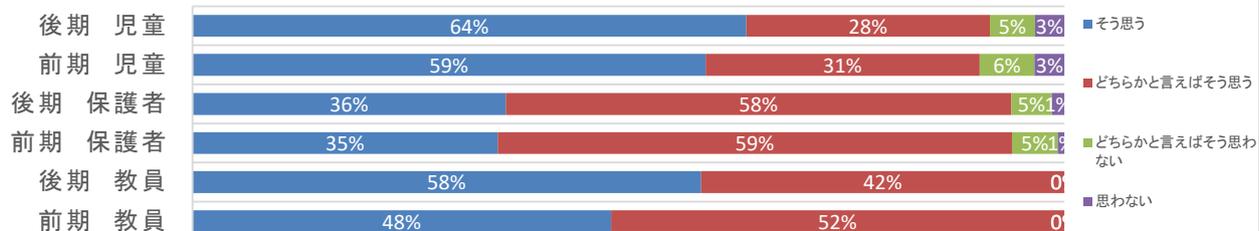
⑯【保護者】【教職員】お便りや担任からの連絡、学校行事への参加等により学校の様子がよく分かる。
【児童】学校のことを、家でよく話す。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	62%	23%	8%	7%
前期 児童	63%	22%	8%	7%
後期 保護者	39%	53%	6%	1%
前期 保護者	38%	54%	7%	1%
後期 教員	50%	50%	0%	0%
前期 教員	28%	72%	0%	0%



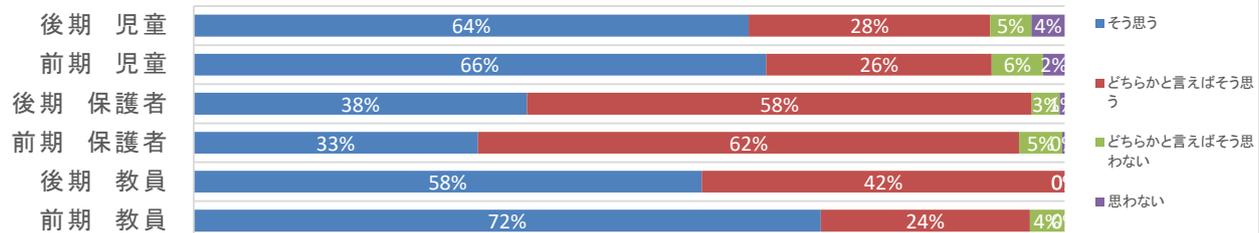
⑰【保護者】【教職員】学校行事はねらいがはっきりしていて、特色ある行事となっている。
【児童】いろいろな行事に向かって、目標をもって頑張っている。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	64%	28%	5%	3%
前期 児童	59%	31%	6%	3%
後期 保護者	36%	58%	5%	1%
前期 保護者	35%	59%	5%	1%
後期 教員	58%	42%	0%	0%
前期 教員	48%	52%	0%	0%



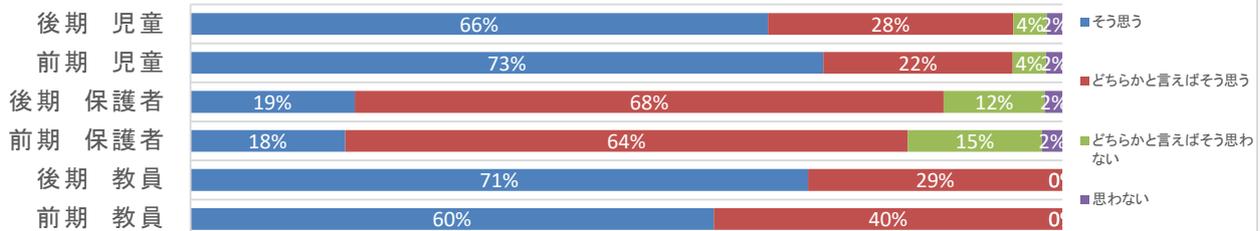
⑱【保護者】【教職員】学校の施設、設備は安全で、整備されている。
【児童】学校は、安全・安心に過ごすことができる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	64%	28%	5%	4%
前期 児童	66%	26%	6%	2%
後期 保護者	38%	58%	3%	1%
前期 保護者	33%	62%	5%	0%
後期 教員	58%	42%	0%	0%
前期 教員	72%	24%	4%	0%



⑱【保護者】【教職員】子供は、緊急時に自分の命を守るために適切な行動をとることができる。
 【児童】緊急時に自分の命を守るために考えて行動することができる。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	66%	28%	4%	2%
前期 児童	73%	22%	4%	2%
後期 保護者	19%	68%	12%	2%
前期 保護者	18%	64%	15%	2%
後期 教員	71%	29%	0%	0%
前期 教員	60%	40%	0%	0%



〈考察〉

設問⑭「自分を、仲間を大切にしている」を意識して生活している」は、今年度の本校の重点目標について聞いた設問でした。児童の肯定的回答は前期・後期ともに91%ととても高い数値を維持しています。また保護者の評価も前期の87%から後期の90%へと上昇し、学校での意識付けがご家庭にも伝わっていることが伺えます。この高い数値は、グランドデザインにある「居場所づくり」「絆づくり」を目指して、各学級で重点目標の掲示や、日々の教育活動を通じた具体的な価値づけを継続してきた成果です。一方で、教員の肯定的な回答は前期80%から後期71%へと下降しており、子供たちとの自己評価との間に差が見られます。これは、教員側が「自分と仲間を大切にすること」の質の更なる向上を求めている表れでもあります。今後は、具体的にどのような行動が「大切にすること」なのかを子供たちと共に考え、対話を重視して一緒に取り組んでいきます。

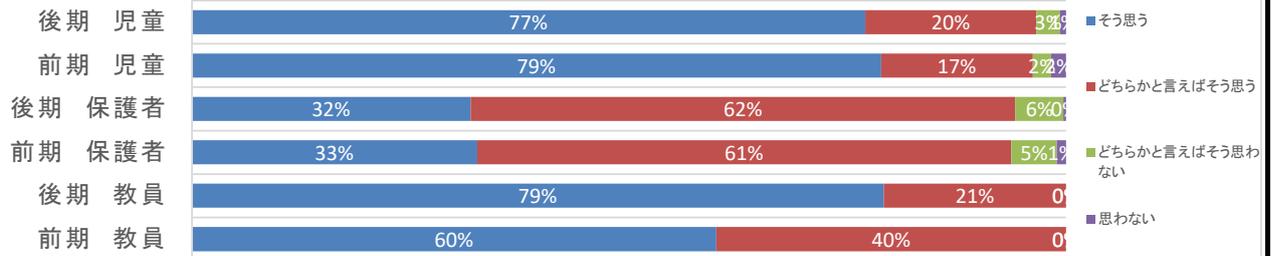
設問⑮「先生は、困っていることや、悩んでいることをしっかり聞いてくれる」では、児童の肯定的回答が92%となりました。特筆すべきは、「そう思う」と回答した児童が92%に達している点です。日常的な教育相談や、子供理解に基づいた「個に寄り添った生徒指導」を教員一同が徹底してきた結果です。今後も子供たちが何でも気軽に相談できる「心の安全基地」としての役割を果たしてまいります。

設問⑱「緊急時に自分の命を守るために考えて行動することができる」に対して、児童の肯定的回答は94%ととても高く、教員は100%の肯定評価をしています。保護者も前期の82%から87%へと評価を伸ばしています。学校での避難訓練や安全指導において、単に指示に従うだけでなく、「自ら考えて動く」という姿勢を大切にしてきた成果と考えられます。

4 コミュニティスクール、小中一貫について

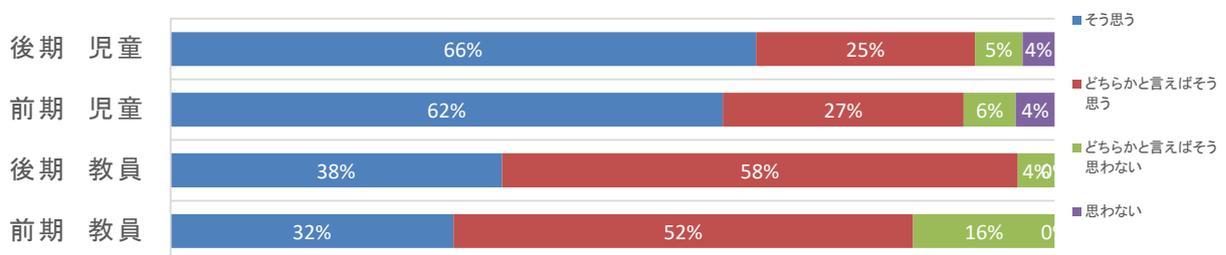
⑳地域の皆様や団体の方が子供たちや学校の教育活動に関わることは
 【保護者】【教職員】子供たちにとって良い効果が表れていると思いますか。
 【児童】あなたにとってよいことですか。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	77%	20%	3%	1%
前期 児童	79%	17%	2%	2%
後期 保護者	32%	62%	6%	0%
前期 保護者	33%	61%	5%	1%
後期 教員	79%	21%	0%	0%
前期 教員	60%	40%	0%	0%



㉑【教職員】子供は、明るい挨拶ができています。
 【児童】明るい挨拶ができています。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	66%	25%	5%	4%
前期 児童	62%	27%	6%	4%
後期 教員	38%	58%	4%	0%
前期 教員	32%	52%	16%	0%



㉒【教職員】子供は、きれいな学校に向けて黙動清掃ができています。
 【児童】きれいな学校に向けて、だまってそうじができています。

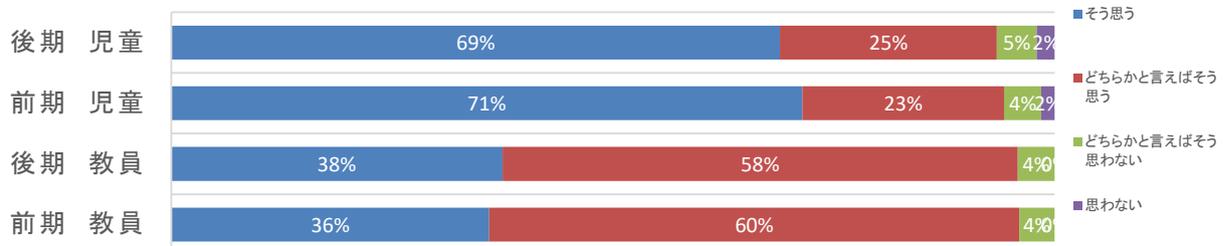
	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	61%	31%	5%	2%
前期 児童	62%	30%	4%	4%
後期 教員	29%	50%	21%	0%
前期 教員	16%	36%	44%	4%



⑳【教職員】子供は、相手の気持ちを考えた言動をとったり、学級の仲間と楽しく過ごしたりと絆を深めることができている。

【児童】友達のことを考えたり、クラスの友達と楽しく過ごしたりと絆を深めることができている。

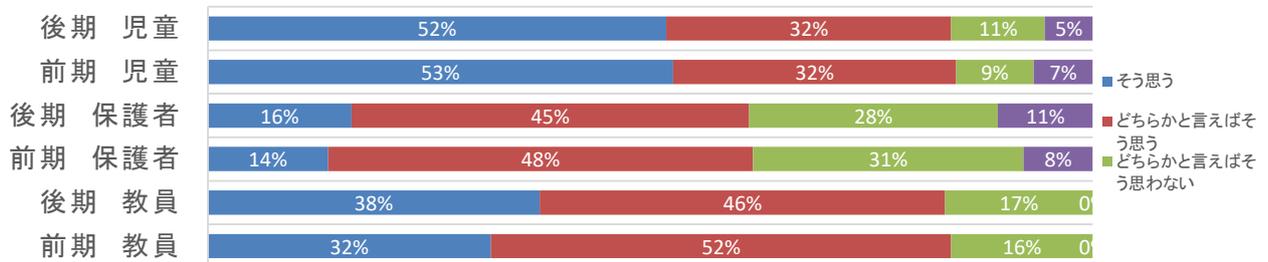
	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	69%	25%	5%	2%
前期 児童	71%	23%	4%	2%
後期 教員	38%	58%	4%	0%
前期 教員	36%	60%	4%	0%



㉑【保護者】【職員】三校（鷹小・天間小・鷹岡中）合同で取り組んでいるエンジョイストップメディアキャンペーン（ノーマディアウィーク）は有効だった。

【児童】エンジョイストップメディアキャンペーン（ノーマディアウィーク）に頑張って取り組めた。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	思わない
後期 児童	52%	32%	11%	5%
前期 児童	53%	32%	9%	7%
後期 保護者	16%	45%	28%	11%
前期 保護者	14%	48%	31%	8%
後期 教員	38%	46%	17%	0%
前期 教員	32%	52%	16%	0%



〈考察〉

CS（コミュニティスクール）は、今年度7年目となります。今年度も、地域の方々の支えによって、子供たちが元気によりよい学校生活を送ることができています。設問⑳「地域の方々が子供たちや学校の教育活動に関わることはあなたにとってよいことですか」の児童の肯定的回答は97%、教員は100%、保護者も94%と三者とも非常に高い評価となりました。これは、登下校の見守りや読み聞かせ、校外学習のサポートなど、地域の方々の多大な支えが子供たちの安心感や豊かな学びにつながっていることとつながります。地域と共にある学校づくり、および小中一貫教育（鷹岡中学校、天間小学校との連携）は、本校の教育活動の大きな柱となっています。設問㉑「明るい挨拶ができている」と答えた児童が91%と、中学校区で取り組んでいるあいさつ運動の成果が表れてきました。学校だけでなく、地域全体で挨拶を大切にす文化の定着を図っていきたくです。また、3校合同で取り組んでいる「エンジョイストップメディアキャンペーン」については、児童84%、教員84%と肯定的に捉えています。保護者の肯定評価は61%に留まっています。家庭での実践には、難しさがあることが伺えるため、次年度はより家庭で取り組みやすい啓発活動を検討する必要を感じています。

令和7年度は、コミュニティスクールとしての地域・家庭との絆を基盤に、授業のユニバーサルデザイン化と心の絆づくりを推進してきたことで、子供たちの表情がより生き生きとした一年となりました。今後も、教職員が子供の内面に深く寄り添い、家庭・地域と「子供の学びと成長」を共に楽しみ、喜びパートナーとして歩みつけいければと考えています。今後ともよろしくお祈りいたします。皆様からいただいたご意見をもとに、よりよい学校作りに取り組みまいります。